

# 開津橋上部工工事

Construction of KAIZU Bridge

川田工業(株)・富山本社

## 1. 工事紹介

本橋は富山県が実施する境川総合開発事業のうち、多目的ダム建設に伴う工事用道路の一環として、上平村柱地内の開津谷に架設されるものである。架橋地点は、急峻なV字峡谷を呈し、橋梁型式としては、50mの高橋脚を配したトラスローゼ桁と合成箱桁が採用された。

現地は岐阜県境に接する山岳地帯で、冬期は県下でも有数の豪雪地帯に位置し、架設条件に厳しい制約をうけることから、架設工事が相当難航することが予想された。周到に架設計画を練り上げ、架設年度を2回に分けて、箱桁径間は架設桁工法、トラスローゼ径間はケーブルエレクション工法と決定した。

工事は、昭和59年5月より開始され、同年度中に工場製作と箱桁の架設工事を完了し、60年度にケーブルエレクションによるローゼ桁の架設、床版等付属工事を続行し、61年8月末に完了の予定である。

## 2. 橋梁諸元

- 橋 長： 220.0 m
- 型 式： トラスローゼ桁 合成箱桁
- 支間長： 168.4 m 49.0 m
- ライズ高： 27.0 m 桁高2.2 m
- 巾 員： 5.0 m
- 橋 格： 一等橋 TL-2 0
- 主要鋼材： SM50Y
- 鋼 重： 1072 t
- 架設工法： ケーブルエレクション 直吊り工法  
自走式トラッククレーン 架設桁工法
- そ の 他： 設計積雪深 4.0 m

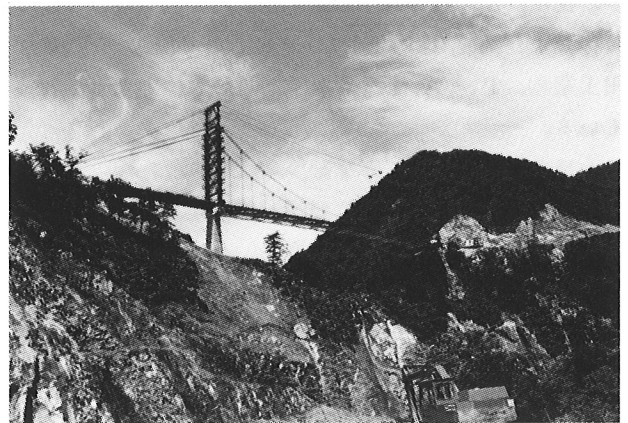


写真-1 架設状況

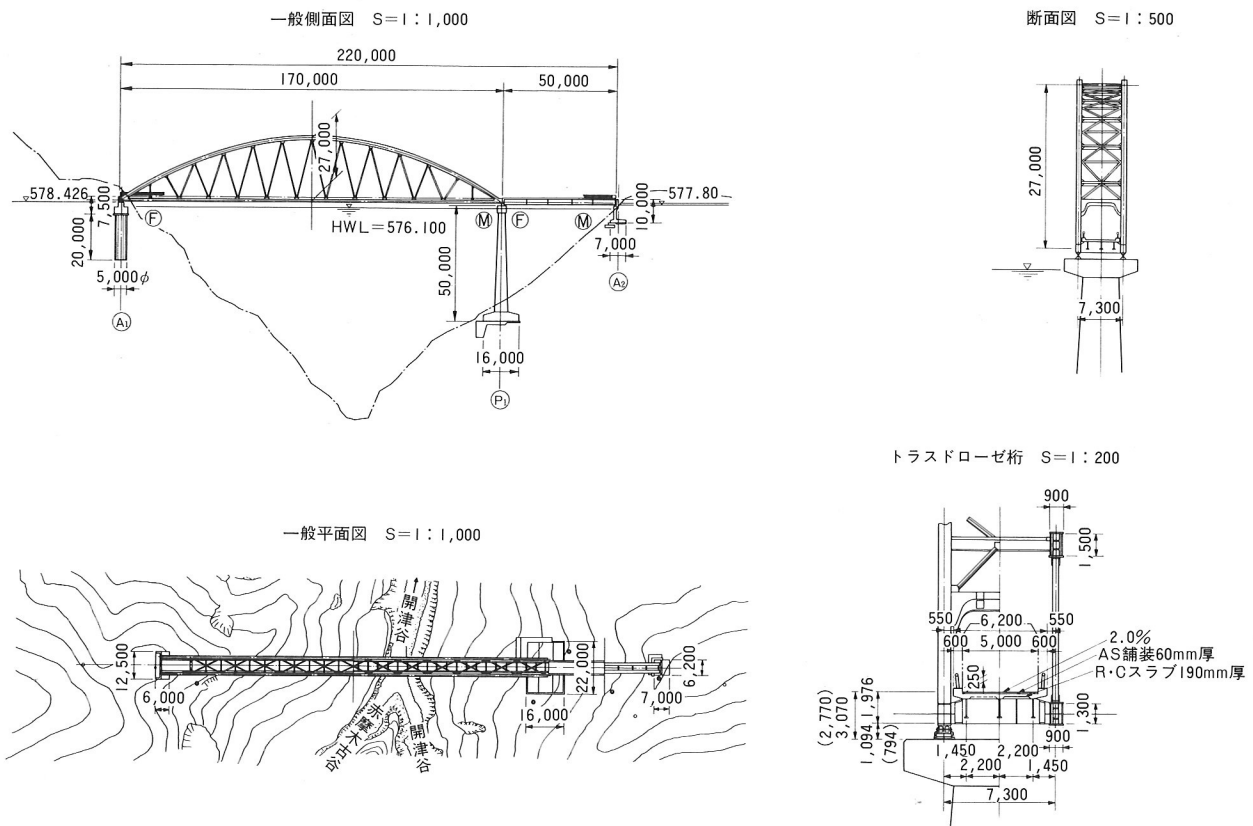


図-1 開津橋一般図